

田園環境都市おやまビジョン | 穂積地区 風土性調査報告会

踏査および文献調査による報告

2024年9月18日

小山市

有限責任事業組合 風景社

本調査における風土の定義

風土とは、
地域の自然に
人間が暮らしと生業を通して
働きかけてかたちづくられる、
人々が生きる環境のことをいいます。

出典: 藺田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

2024年4-7月に
現地を歩き、
資料を読み、
わかったことを
地図に表すなど
作業を行いました。

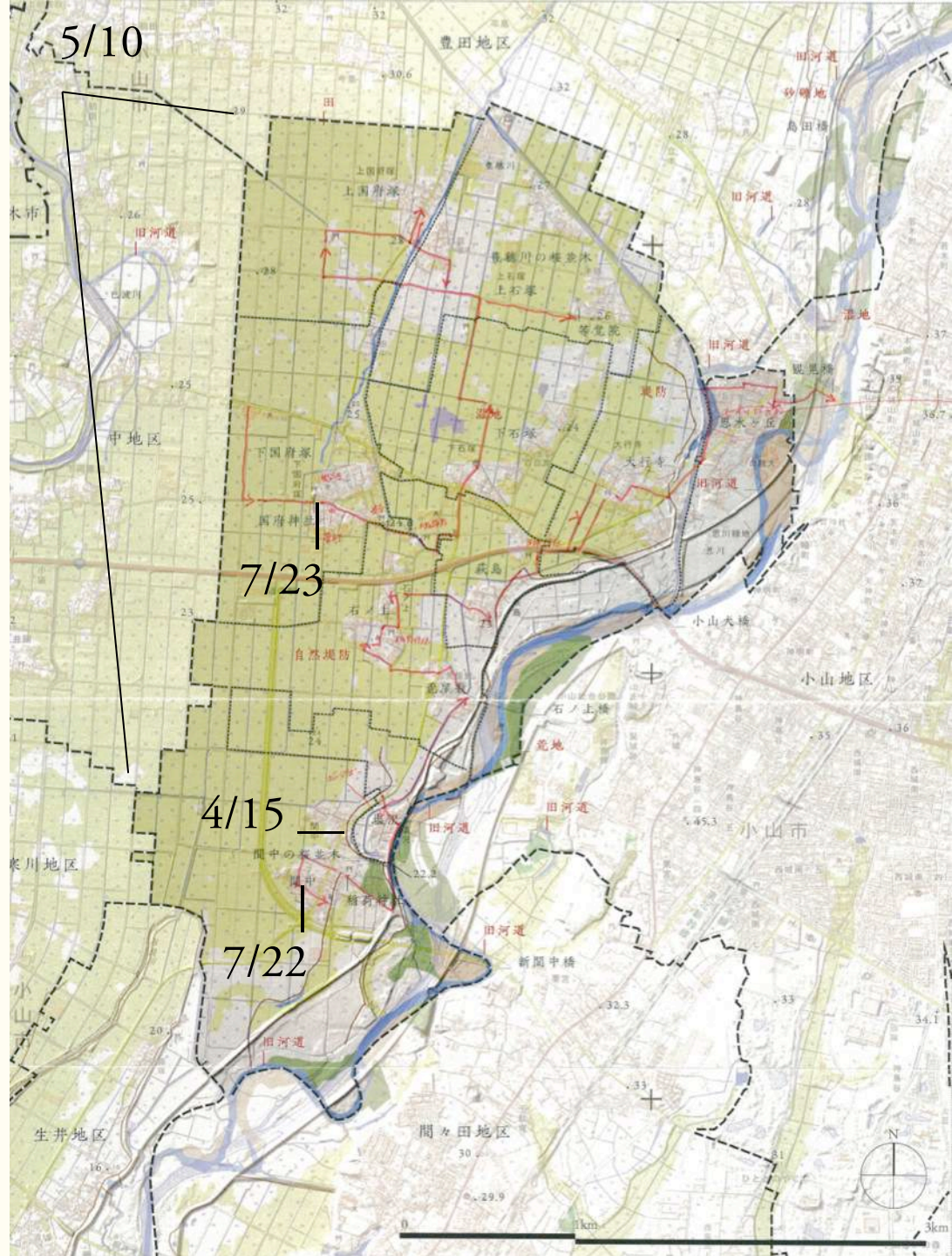
4月15日(月) 南部 (間中・塩沢)

5月10日(金) なつみずたんぼ

7月22日(月) 南部

23日(火) 北部

出典: 国土地理院 | 地理院地図 (廣瀬改変 2024)



報告のはじめに

穂積地区は思川低地に位置し、
ほぼ全域が洪水浸水想定区域に当たります。

出典: 小山市 | 小山市洪水ハザードマップについて <https://x.gd/Y6V5F> (2024-08-24 参照)

簡易社会調査では、
水害への不安を示す回答が、
思川低地中・南部の4地区に共通して上位を。
農業の継続、継承の不安についても同様です。

思川低地は、
川が氾濫を繰り返して
できました。
その中で、
縄文時代後期以来、
人が自然と折り合って
生きてきた歴史が
当地にはあります。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ
自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、235頁



市街地の非農家 → ← 田園部の農業者

農作物の対価は得られる

食品として購入 (消費者) ↔ 農作物生産・供給 ※直接販売はほぼない

原材料として購入 (加工者) ↔ //

販売品として購入 (流通・販売者) ↔ //

その他の自然の恵みの
対価は得られない

↔ 自然の恵み (生態系サービス) の仲介

- ・ 供給サービス (食料のほか非常時の生活用水〈農業用水より〉)
- ・ 調整サービス (遊水・田んぼダム、地域の気候・熱環境調整)
- ・ 文化的サービス (祭礼の動機・資材、創作の動機・主題、教育)
- ・ 生息・生育地サービス (生物多様性〈湿地環境の保持より〉)

税を原資とした
補助事業はあるが、
農業者の自然の恵みの
仲介に対しては不適正

田園部から都市部を望む。大行寺。2022/06/04

不利な条件に立つ低地の農業者が、自然の恵みの
仲介にこれまでどう貢献してきたか振り返ります。

報告のはじめに ※河川低地各地区共通スライド

当地区の農業者は、水害常襲地で様々な困難を抱えながら農業を続けることにより、市街地の非農家に大きな恵みをもたらしてきています。

参照: 鎌田磨人「グリーンインフラとしての水田とEco-DRR」『農村計画学会誌』37(4)、2019年、358-361頁

こうした農業者の自然の恵みの仲介に対する適正な対価が求められます。

参照: 吉永健治「農村アメニティの需給とインセンティヴ」『農総研季報』(37)、農林水産省農業総合研究所編、1998年、5-21頁

目次:

1 地域の自然について

2 地域の自然への人の働きかけについて

3 地域と人々の心身の結びつき

4 景観から読みとれるその他のこと

地域の自然について



合併以前の旧町村の区分に基づく小山市内の11地区を示す | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

穂積地区は、小山市中部から西寄りに位置し、



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

思川低地上に立地していて、
地区の東縁がほぼ思川に、西縁の北側が与良川に
それぞれ接しています。

穂積地区は、
明治22年(1889)に
上国府塚・
下国府塚・上石塚・
下石塚・萩島・
大行寺・石ノ上・
塩沢・間中の9村が
合併した穂積村を
もととします。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史
通史編 III 近現代』小山市、1987年、
332頁

国土地理院 | 地理院地図

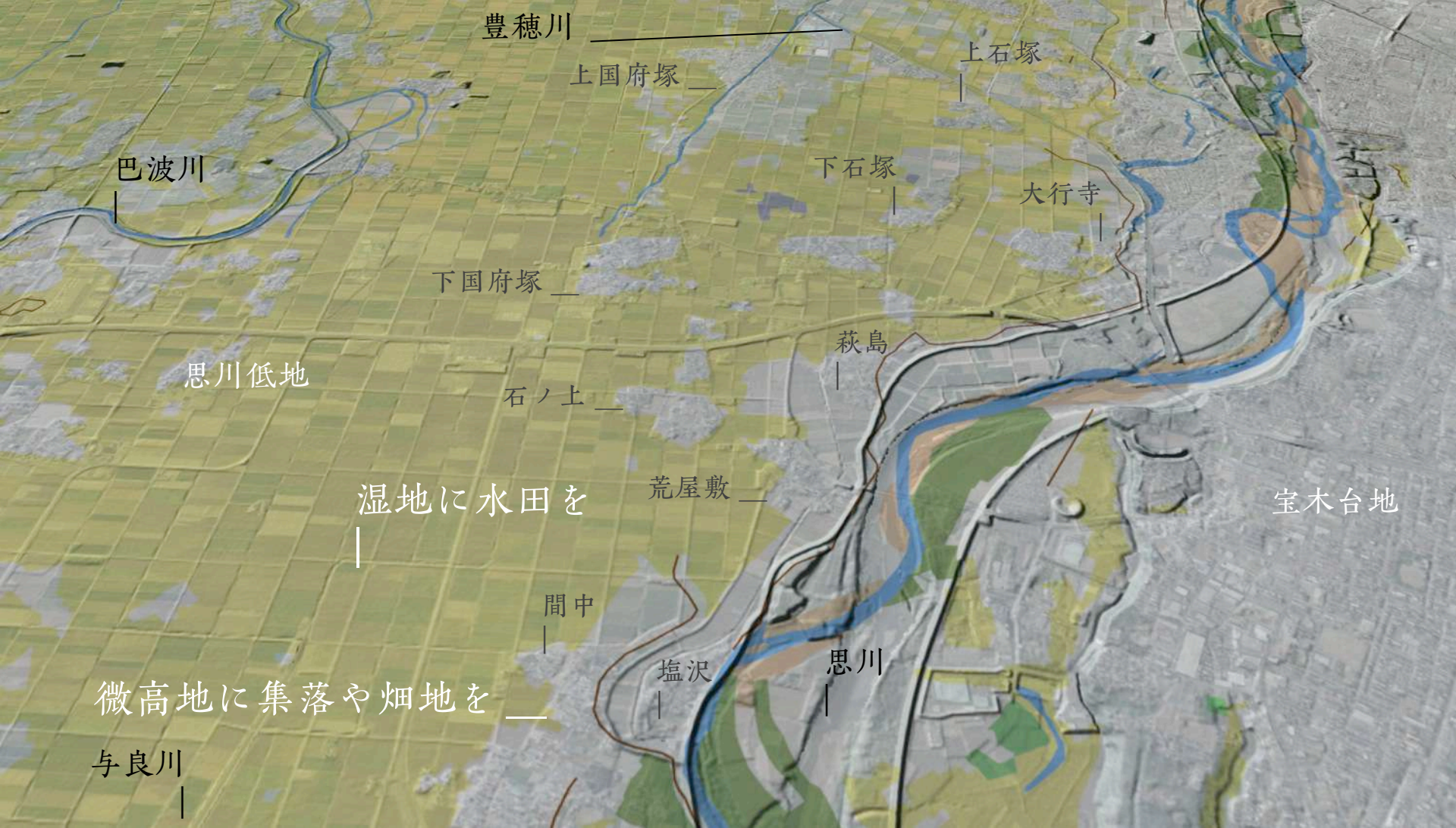
<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)





出典: 国土地理院 | 地理院地図 | 標準地図+陰影起伏図+明治期の低湿地 3D <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

現代の地図に明治期の低湿地の分布を重ねます。
薄黄色は水田を表します。



出典: 国土地理院 | 地理院地図 | 空中写真+陰影起伏図 3D <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

思川低地では、集落がつくられた微高地の他は
湿地でした。それが湿田とされ、乾田とされて今に

目次:

1 地域の自然について

2 地域の自然への人の働きかけについて

3 地域と人々の心身の結びつき

4 景観から読みとれるその他のこと

地域の自然への人の働きかけについて

「思川を利用した灌漑地は川の西岸にひろがっている。(中略)大字小宅から間中にかかる範囲」

「律令時代に入り下野国が設置されると、この地域のすぐ北部（現栃木市域）に下野国府が設置され（中略）条理的区画が着手された（後略）」



穂積地区中部空中写真。1949/01/09。出典: 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス 同左治水地形分類図。出典: 国土地理院 | 地理院地図

「大字小宅から間中に至る南北約8.5 kmに及ぶ範囲で
各所に整然とした方格地割による区画が (中略)
上^{かみこうづか}国府塚・下^{しもこうづか}国府塚・上石塚・下石塚・石の上・
間中の旧穂積村には多くの遺構がみられ、
南北方向の方位をもつ例が圧倒的に多い」



星宮神社。上国府塚。2024/07/23

国府(こう)神社。下国府塚。同左

「古代においては、政務を執り行う国庁は、現在の
栃木市田村町近辺が推定されるが、小山には
『上国府塚』^{かみこうづか} 『下国府塚』^{しもこうづか} という国府名の付く
村落が (中略) 国庁は、領主交代や洪水などの (中略)
影響も受けて (中略) 順次移動していった可能性も」



等覚院観音寺。上石塚。2024/07/23

「小山氏は (中略) 藤原秀郷の後裔である」。

常陸下総で平将門の乱を鎮めた秀郷に、朱雀天王は
聖観世音像を贈りました。以来、同家では観音像が
敬われ、新たに彫刻された像もありました。

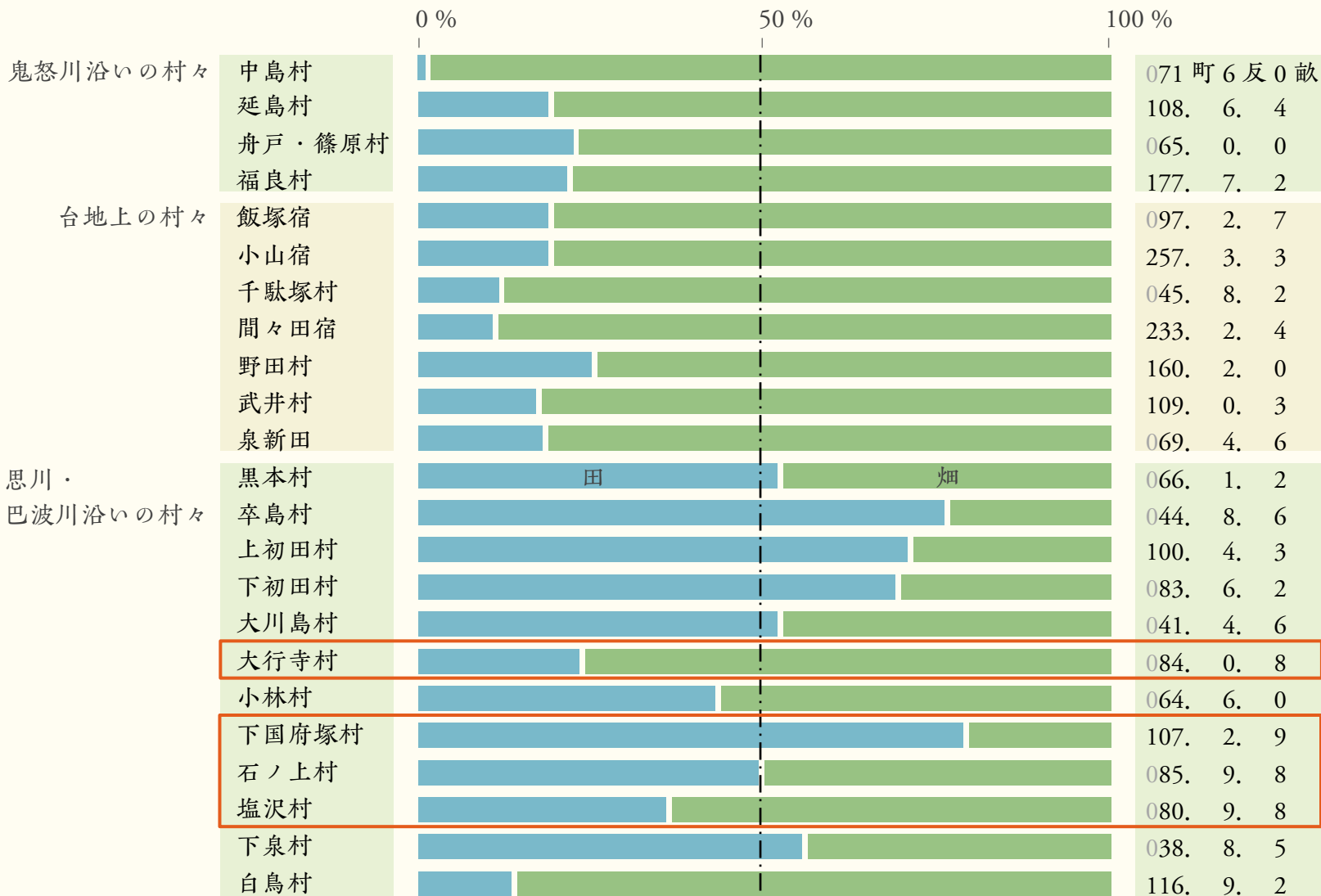
康正元年 (1445) 建築の観音寺に一体が安置されます。



史跡石塚館記名碑。下石塚。2024/07/23

史跡石塚館・星宮神社全景。同左

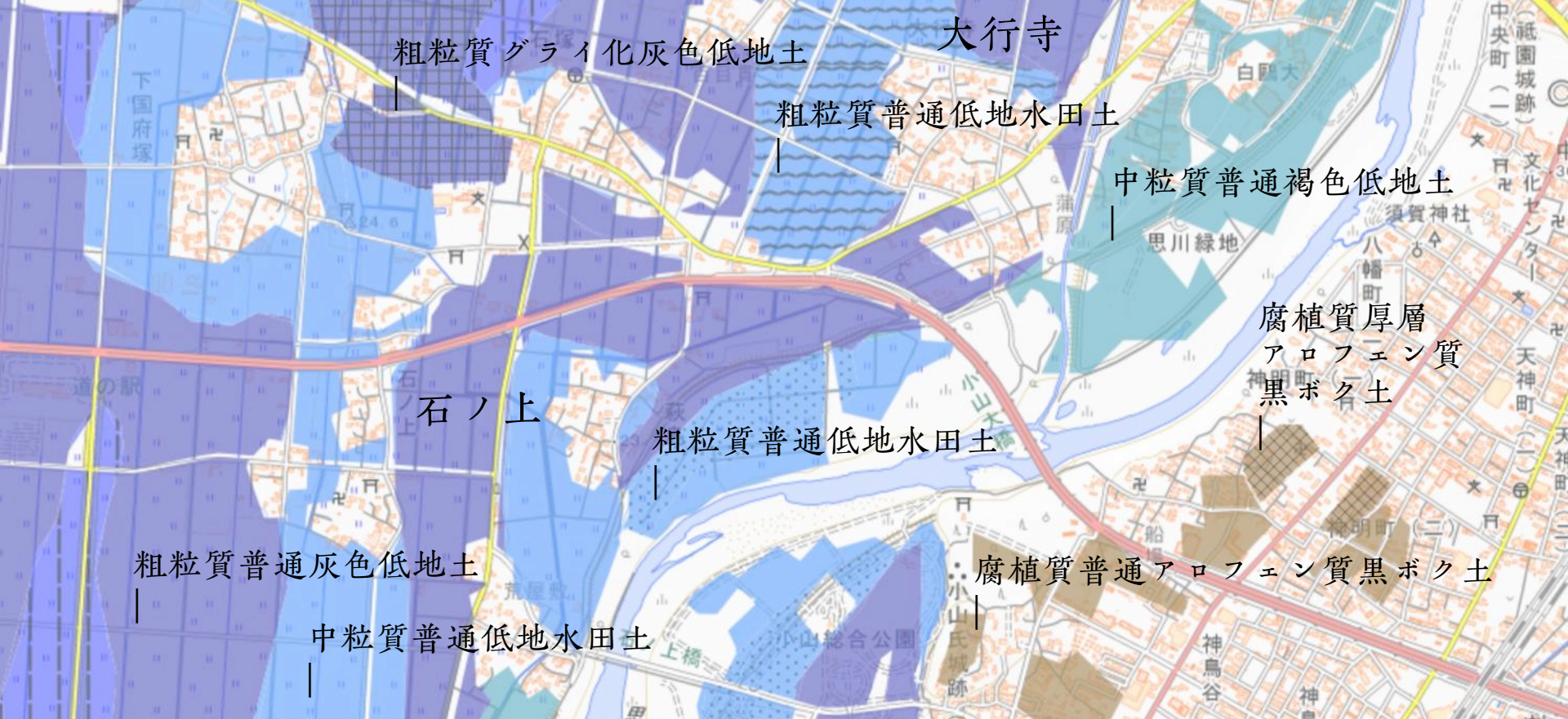
「戦国時代の小山市の支配領域内には大小さまざまな
(中略) 城や館が」「祇園・榎本両城を結ぶ道路の北方
に (中略) 石塚館など」。小山政隆が建武元年 (1334) に
石塚館を築いた際、前述の観音像を譲られます。



明治期の穂積村
現在の穂積地区
”

江戸期市域農村の田畑構成 (注 卒島村は関宿藩領のみ) 出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、総757頁 廣瀬改変 2022

微高地に畑、低湿地に田が作られ、割合は村毎に...



農業・食品産業技術総合研究機構 | 日本土壌インベントリー | 土壌図 <https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/figure.html> (廣瀬改変 2024)

「台地上では播種量は多く、思川・巴波川の平野部では早くから播種量が少なくなったようである。これは両者の自然条件の差が現れたともいえるが、(中略) 大きな差が (中略) そこには稲作技術の差が」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、194-195頁

村名	年代	粃	大麦	小麦
中島	天保09年03月		7,8 升	7,8 升
飯塚	正徳02年07月	1 斗1 升	8 升	8 升
間々田	明和元年09月	1 斗	1 斗	
野田	享保05年08月	7,8~9 升	7,8~9 升	
武井	享保10年09月		8~9 升	
黒本	延享元年09月	6 升	1 斗	
大行寺	元禄08年05月	6 升		
下国府塚	正徳05年08月	8 升	1 斗3 升	1 斗3 升
石ノ上	正徳05年09月	6~7 升		
白鳥	慶応元年08月	6 升	8 升	3 升

田畑播種量 (1反に付)。 出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 史料編・近世 I』史料3・5・10・11・13・16・22・24・25・28

「一定面積の作付けに必要とする種子の量」、
播種量は「少ないほどよい」。18世紀初頭より、
浸種の期間が短縮され、粃は1反あたり1斗5、6升→
5、6升到。大行寺・石ノ上村などは技術を早くに。



集落西端から北側、今里の方向を望む。上国府塚。2024/05/10

「10年くらい前から麦の刈り取りが終わった
田んぼで水はけの良いところを選んで、レタス、
ブロッコリーを栽培(二毛作的に)」。
技術的工夫は、農業従事者の方々への
グループインタビューでも注目されました。

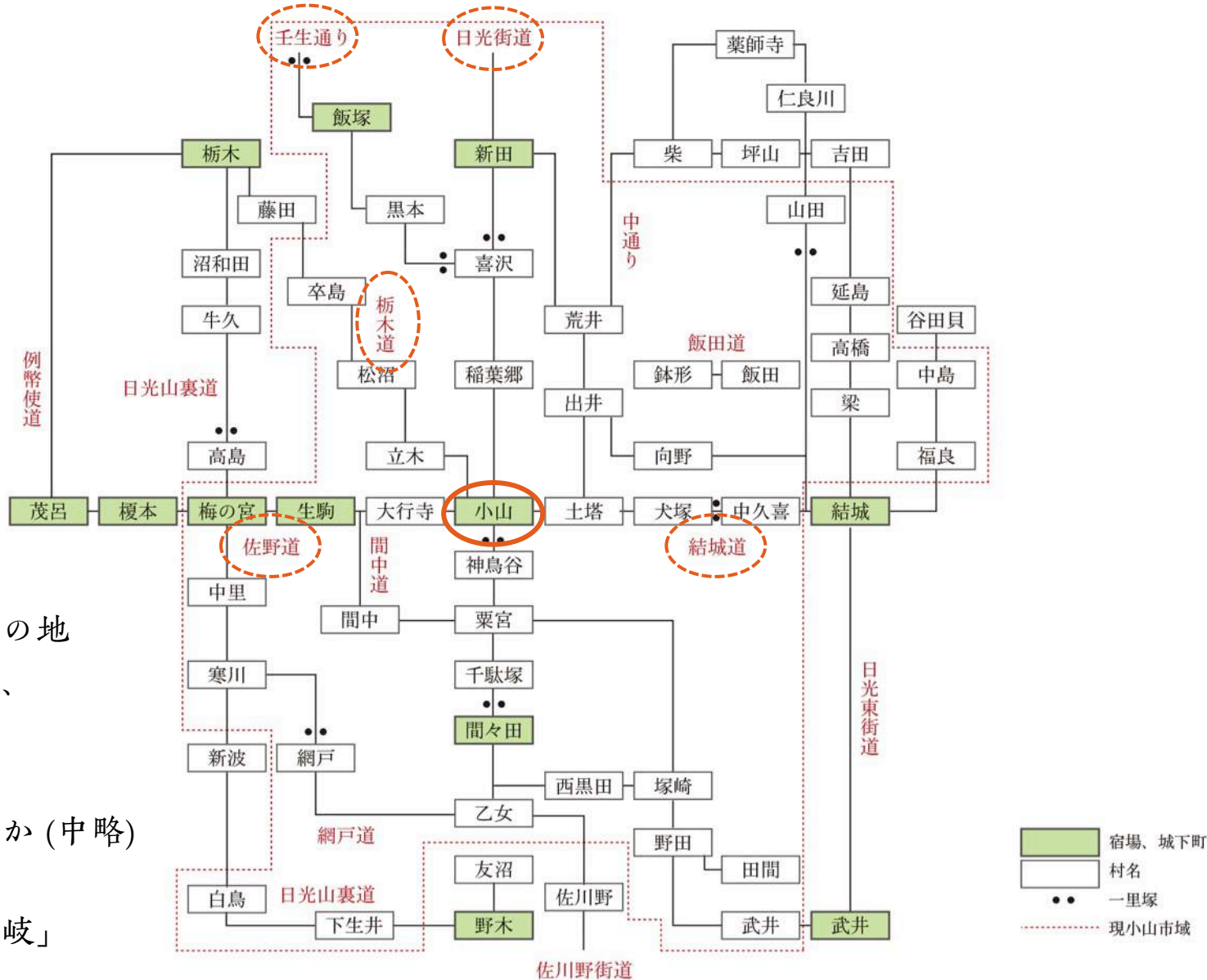
「米がおいしいのは土質の良さと豊富な地下水」。
これも農業従事者へのインタビューで。



石ノ上橋。石ノ上。2021/10/06

「思川低地における湧水は、今は地下水が低下した
ため見られないが、かつては豊かであった」。
「石ノ上橋付近では(中略)泥層を流れている地下水が
湧出するため、夏の川の水温はそこで急に低くなり、
冬は逆に高く(中略)水質もよいので、生物の種類も」

「小山は
五街道追分の地
ともいわれ、
日光街道・
壬生通り・
結城道のほか(中略)
栃木道と
佐野道が分岐」



五街道追分の地を中心に、各地区も重要な役割を。



旧堤防を過ぎて集落へ入る佐野道。大行寺。2024/07/22



集落内を通る佐野道の道標。「左 佐野 右 小山」。同上

「清水坂下の渡しから栃木道と佐野道が分岐」

「この渡船場は文政元年 (1818) 12月から村持ちとなり」

「佐野道は大行寺から榎本方面へぬける道で、とくに後期にかけて太平山への参詣道としてよく利用」。



治水地形分類図。出典: 国土地理院 | 地理院地図

石ノ上橋から下流側、新聞中橋を望む。石ノ上。2021/10/06

「塩沢村では慶応元年 (1865) 渡船を川船役所へ出願」
 「同村は思川の東岸に枝郷の外城があり、川を挟んで
 東西に居住していた関係から田畑も東西にあって、
 (中略) 往来に手間取り、農作業に不便であるから」と

目次:

- 1 地域の自然について
- 2 地域の自然への人の働きかけについて
- 3 地域と人々の心身の結びつき
- 4 景観から読みとれるその他のこと

学校名	開校年月日	学校位置	開校時生徒数
国府塚学校	明治6年09月02日	下国府塚村 興永寺	60人 ※学区に上河原田村・下河原田村・小袋村・井岡村を含む
国府塚学校 間中村分校	明治6年12月09日	間中村 東光院 ※廃寺跡	75人
国府塚学校 大行寺村分校	明治7年08月01日	大行寺村 神宮寺 ※廃寺跡	39人

小学校設立一覧 (寒川地区)。 出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、73-86頁

明治6年 (1873) に全国で小学校の設立が本格化。
「栃木県では、当面は在来の寺院等を借用する方針を
採り (中略) 小山市域に設立された小学校の
ほとんどは寺院を利用」。新築例は皆無でした。
穂積地区では、下国府塚※、間中、大行寺に。



国府塚学校が置かれた興永寺。下国府塚。2024/07/23

今日の小山市立穂積小学校。萩島。2024/07/23

「小学校の設立には、さらに教師を確保するという問題があった」「士族を中心とする当時の知識人によって（中略）そのなかで国府塚学校大行寺分項に稲葉うたという女性教師が勤務していた点は注目に値する」「彼女は栃木県における最初の女性教師」



出典: 穂積わがまちげんき発掘事業推進協議会編・発行「いいところ再発見ガイド穂積」(2017年)ほか

地区の方々による発行物が日常に潜む価値や魅力を

目次:

- 1 地域の自然について
- 2 地域の自然への人の働きかけについて
- 3 地域と人々の心身の結びつき
- 4 景観から読みとれるその他のこと



屋敷林を残した家の例。上国府塚。2024/07/23

シラカシの高垣、カシグネまたはカシモガリ。同左。2024/07/23

「母屋の背後の庭をセドという。セドには、冬季の季節風を避けるための屋敷林を配する家が」。

「(前略) 低地帯の農家では、広大な屋敷林を構える家が少なく、母屋の屋根の高さまで高くした生け垣を風除けにすることが多い」「櫨の木をきれいに刈り込んだカシグネ・カシモガリが多い」



大杉神社。上石塚。2024/06/26



上国府塚との境で見た大杉神社祈禱札。上石塚。2024/06/26

大杉神社は、「県内において、大きな河岸では水神として信仰される例が多い」「大きな川から離れたところにおける信仰は、悪疫防除が中心」。祭りでは、「村境で辻固め辻どめなどと称して、みこしをまわしたりおはやしをはやしたりし、竹などにお札をはさんで立てる」。



下石塚薬師堂。「文化15年(1818)、奉納された薬師如来立像を安置するために建立」。下石塚。2024/07/23

文化15年(1818)に建立。病氣平癒の薬師様として、
信仰を」。原則毎年4月8日に行われる花祭りでは、
「様々な花で飾られた小堂、花御堂の中に幼仏像を
まつり、甘茶を柄杓で(中略)掛けて祝います」。

市史より引用を。「当市でいちばん多いのは、眼の神様としての信仰」
「オシャカサマの像(誕生仏)に甘茶をかけ、さらにその甘茶を眼に
つけて」。下石塚では薬師様が信仰されますが、眼については?



治水地形分類図。出典: 国土地理院 | 地理院地図

間中桜並木 (または間中の桜並木)。河川の氾濫の歴史を伝える遺構でもある。間中。2024/04/15

間中と塩沢の間を流れた思川旧河道の右岸堤防跡、
現在の栃木県道173号萩島白鳥線に、昭和15年(1940)、
約200 mにわたって桜が60本植えられ、
間中桜並木として地元自治会の方々が大切に。



豊穂川。上石塚。2024/06/26

昭和16年（1941）頃、巴波川の治水を目的として
通された豊穂川の桜並木も「おやま百景」に。



各室または2室に1個「気抜き」を設けた例。間中。2024/07/22



棟に沿って長く気抜きを設けた例。同左

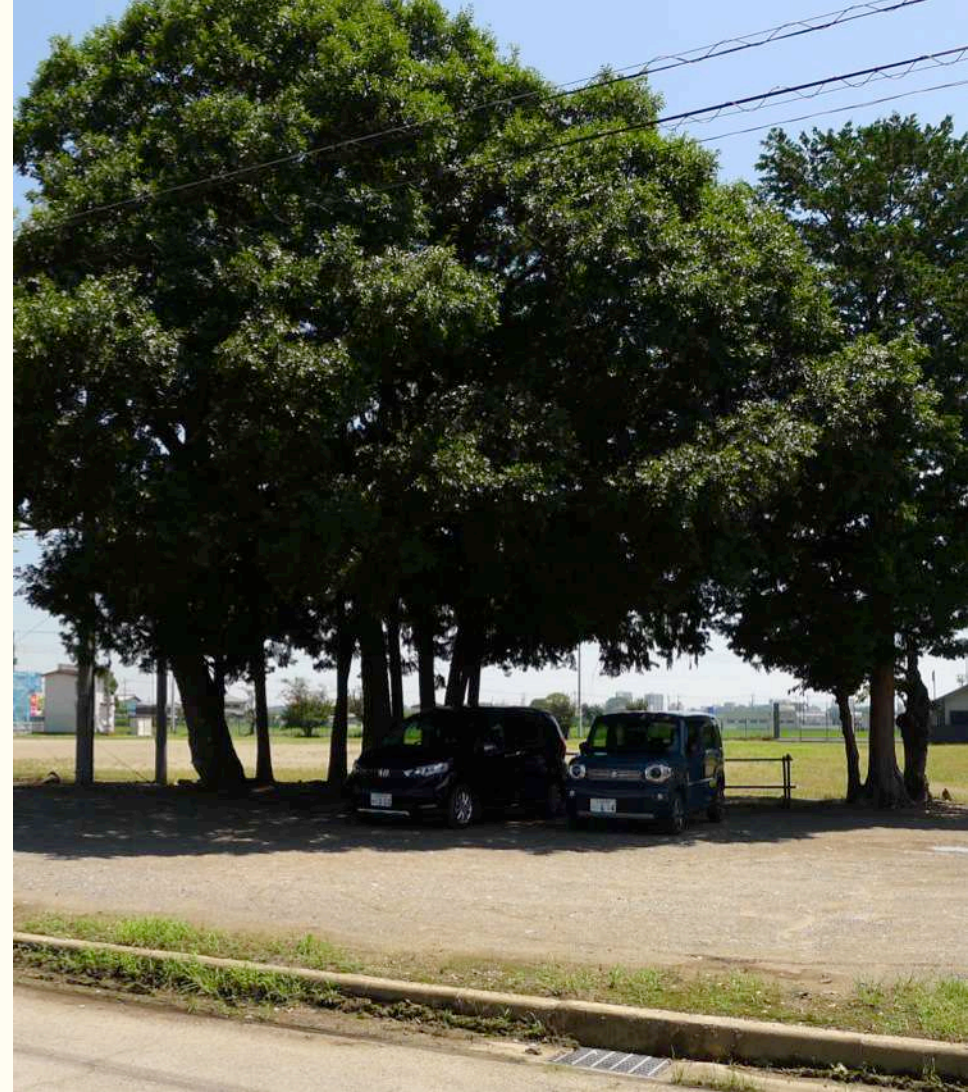


棟に沿って長く気抜きを設けた例 (写真左手の木はクワ)。同上



棟に沿って長く気抜きを設けた例。同左

「いまとなつては、労力の割りには収入も少なくなつてしまつた養蚕。桑は荒蕪地に強いとあつて、小山にも桑の里がたくさん」「蚕は温度に敏感。寒い時期は暖を (中略) 煙を排出しやすい構造にした」



穂積小学校 (左手) と穂積グラウンド (右手)。萩島。2024/07/23

写真左と同地点で撮影。駐車場からグラウンドを見る

穂積グラウンドの駐車場に注目を。道路から少し
角度を振って確保した空間で、木陰に車を置いて...



穂積小学校周辺の空中写真。1975/01/30



現在の同小学校周辺。出典: 国土地理院 | 地理院地図

1975年撮影の空中写真を見ると、校舎は現在のグラウンドの位置にあり、旧校舎と西側の校庭の境に木が列植されていました。以後、水路に沿って市道が通され、道路と木々の間が駐車場に。

生井地区でこのような報告をしていたのですが



ミズワラビ
またはヒメミズワラビ



ミズワラビまたはヒメミズワラビ、上生井。2021/09/21

上生井、右手の道は神明社前に続く。2021/09/21

風害や水害への備えとする木々が囲む集落内部に、
人が植えた植物と自然に生える植物が植生をなし、
植生は動物や微生物の生息・生育の空間になる。

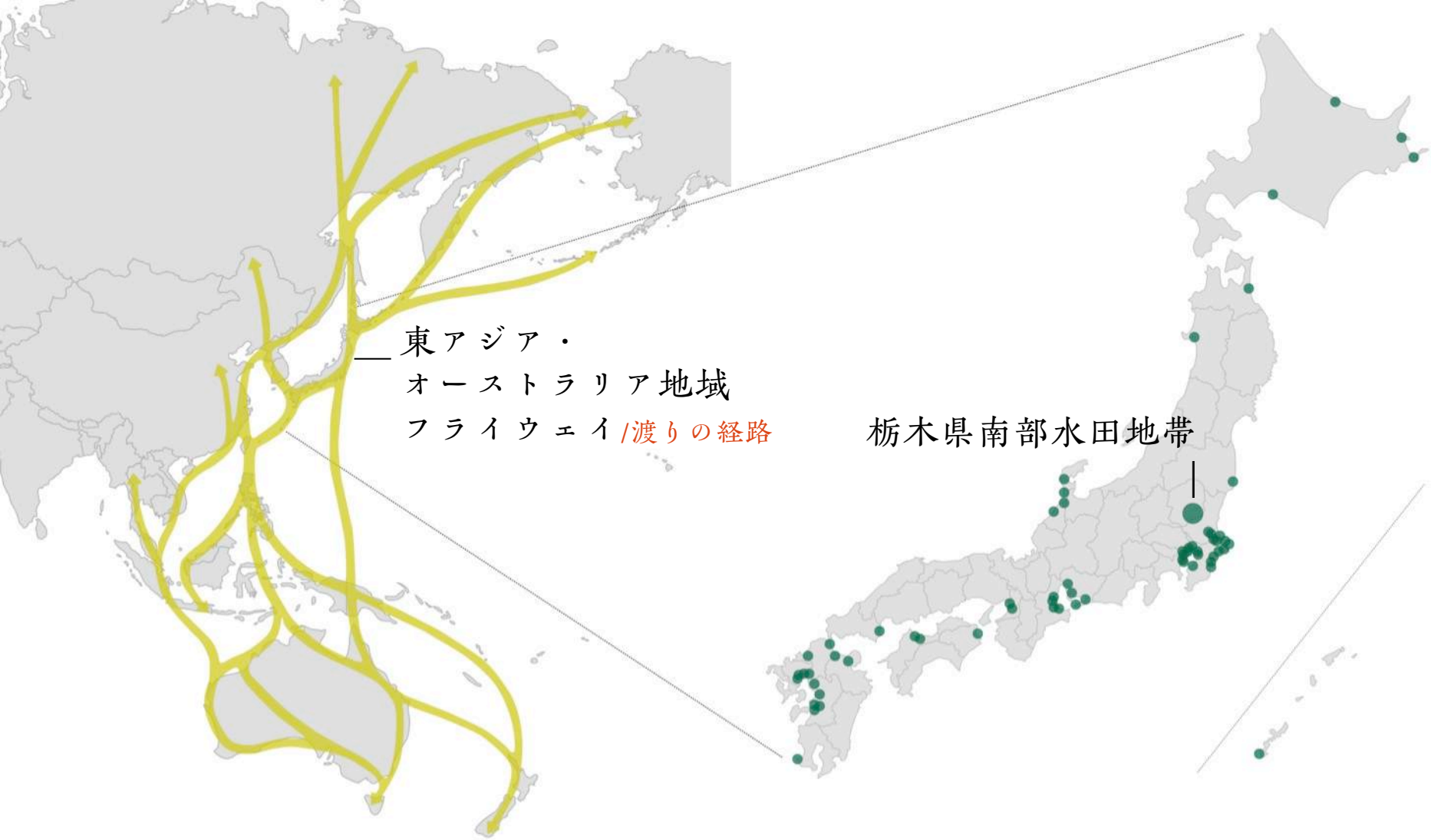


ミズワラビ。石ノ上。2024/07/22



同左。上国府塚。2024/07/23

半水生シダのミズワラビは、関東地方では東京都で絶滅。埼玉県と神奈川県で準絶滅危惧種に指定。栃木県では近年増加傾向にある。減少の原因は、農薬の使用等と考えられている



東アジア・オーストラリア地域フライウェイの略図

WWFジャパン「日本のシギ・チドリ類重要渡来地」(68地点)

シギ・チドリ類など渡り性の水鳥が毎年移動する
経路には、彼らが休息し餌を採る湿地が点々と...

Source: David A. Milton. Threatened shorebird species of the East Asian-Australian Flyway. Wader Study Group Bulletin 100. 2003. pp. 105-110. / WWF ジャパン <https://www.wwf.or.jp/activities/lib/3458.html> (2024-08-19 参照)



ふゆみずたんぼ実施田の例。上生井 (生井地区)。2021/06/23

小山市では、湿地を通年確保して水鳥の渡りを支えるため、冬も田に水を張るふゆみずたんぼを9ヶ所、面積約7.9 haで協議会会員9名が、

出典: 小山市ウェブサイト | ふゆみずたんぼ・ホンモノコの実組について <https://x.gd/BbL1r> (2024-08-21 参照)



なつみずたんぼ実施地の例。穂積地区。2022/08/22 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影

麦の収穫後に水を張るなどするなつみずたんぼを
計204筆、面積約50.9 haで49名の生産者が
それぞれ実施しています。

出典: 小山市ウェブサイト | なつみずたんぼについて <https://x.gd/UGZZ0> (2024-08-21 参照)



穂積地区調査地点。2024/05/10 (麦類栽培時)



2024/07/23 (麦類収穫後のなつみずたんぼ実施時)

鹿沼自然観察会の鈴木由清氏は、2015から
小山市内で夏期のシギ・チドリ類調査を行う。



トウネン。穂積地区。2022/09/07 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影

トウネンは、当地区で比較的よく見られる鳥類。



上石塚・下石塚・大行寺。1949/08/25

同左。2021/05/06。出典: 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス

「低地の原形は圃場整備のためほとんど残っていないが、(中略)水田よりやや高位の微高地が」。
その中で、農地の扱いの工夫などにより、水鳥が。



水田。松沼（豊田地区）。2024/05/10



ムナグロ。間々田地区。2024/05/07。鈴木由清（山鳥舎）撮影

鳥たちは、たとえばムナグロならば、
耕起中の田と水を張りイネを植えた田を
行き来するなど、農作業の過程でできる環境を
選んで使っているそうです※。



小山市には写真のノスリを含む猛禽類も複数種が生息・生育しています。2021/03/16 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影 ※矢板市上伊佐野での撮影例を紹介

人間が必要とする自然の恵みは、生態系の中で
生物がそれぞれの役割を果たすことで得られます。
小山市の農業は、食料生産と共にそれも支えて
きています。その価値と可能性の確認から、次へ。